



おかやま環境ネットワーク

NO.86
2017.3

NEWS

発行:公益財団法人おかやま環境ネットワーク
〒700-0026 岡山市北区奉瀬町1-7-7
TEL/FAX 086-256-2565
E-mail:kankyounet@okayama.coop
HP:http://www.okayama.coop/kankyounet/

『地域をつなぐ里海・里山交流シンポジウム』開催報告

- ◆日時：2017年2月18日(土) 13時～17時
- ◆場所：オルガホール
- ◆参加：129名
- ◆内容：

2016年6月3日～5日、アマモ場再生活動発祥の地として知られる岡山県備前市日生において、第9回全国アマモサミット2016in備前「備前発！里海・里山ブランドの創生～地域と世代をつなげて」が開催されました。北海道から沖縄まで全国からの参加者数は2,000名に達し、新たなステップに踏み出すための大なる成果が得られました。

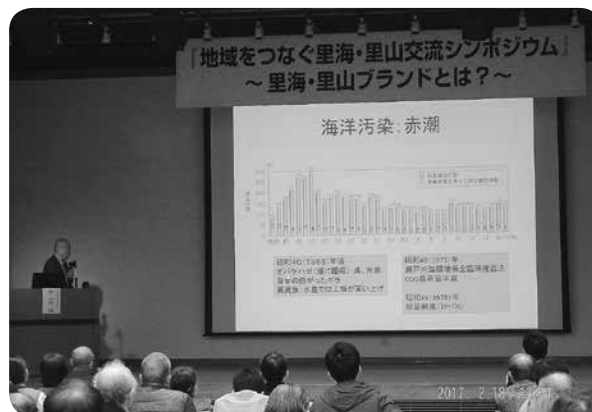
そして、その場において『自然を守り育むため、全国のまち・学術・NPOのネットワークをさらに広げ、里海・里山・まちを繋げる「里海・里山ブランド」を確立して発展させ、自然と人が“共生”するための有るべき姿の実現を目指す』との大会宣言が採択されました。

「里海・里山ブランド」とは、里海・里山づくりを担う人々、そこを訪れる人達にとって価値あるイメージの総称であり、関わった誰もが幸せになる世界観そのものです。そして、それは里海・里山に育つ子供たち、そこを訪れる子供たちの未来のために資するべきものです。

今回のシンポジウムは、里海・里山ブランドとは、その意味と価値は、なにをすべきか、里海と里山とまちからそれぞれの立場と視点で考えることを目的に開催しました。

冒頭、環境省中国四国環境事務所長・牛場雅己氏より挨拶があり、NPO法人里海づくり研究会議副理事長・九州大学名誉教授・柳哲雄氏『里海から』、続いて、認定NPO法人共存の森ネットワーク理事長・澁澤壽一氏『里山から見た里海・里山ブランド』をテーマに基調講演がありました。

その後、NPO里海づくり研究会議理事長・広島大学名誉教授・松田治氏をコーディネーターに、パネルディスカッションをすすめました。



基調講演①・柳哲雄氏



基調講演②・澁澤壽一氏

- ◆パネルディスカッション「里海・里山ブランドとは？」



パネルディスカッションの様子

◆パネリストと報告テーマ

- ・日生町漁業協同組合専務理事・天倉辰己氏
『里海づくりは地域づくり？～気が着けば30年～』
- ・笠岡市漁業協同組合北木島支所長・藤井和平氏
『豊かな海への漁師のチャレンジ！～未来につなげよう俺達の豊かな海～』
- ・恩納村漁業協同組合代表理事組合長・山城正巳氏
『恩納村漁協の里海づくり』
- ・真庭市副市長・吉永忠洋氏
『すべての人が輝く「真庭ライフスタイル」実現へ～「里山資本主義」真庭の挑戦～』
- ・岡山市市民協働局ESD推進課主査・友延栄一氏
『岡山ESDプロジェクト～次世代に学んで引き継ぐこの地球～』
- ・生活協同組合おかやまコープ理事・大岸貴美子氏
『おかやまコープの取り組み』

各取り組み報告の後、基調講演の演者を含め、質疑応答を通して参加者との交流をすすめました。



天倉辰己氏



藤井和平氏



吉永忠洋氏

◆参加者の感想：

- ・これからの生き方、普段生活をする中で、考えないような価値観について発見がありました。
- ・どうやって生きるか、持続可能なくらし方をどうするかについて学ぶ良い機会でした。
- ・里海・里山という言葉にたくさんの背景、意味があったことに驚きました。まだまだ知らないことばかりで、学習を深めていきたいと感じました。
- ・自分の役割について考え直したいと思います。
- ・経済重視から関係性重視へのシフトが進む時代に、このような活動分野をまたがる議論に参加できてよかったです。
- ・ライフスタイルを変えること、価値観を考え改めること、そうしたところまで進めていけると、里海・里山の展開が一気に開けると感じました。
- ・いろいろ考えさせられ、気づかされました。少しでも誰かの役に立つよう行動します。
- ・自分の生き方、価値観を見直す良いきっかけになりました。
- ・地域の限界、ライフスタイルを家庭内で話してみたいと思います。
- ・都市部でしか生きたことがないので、内容のすべてが新鮮だった。持続可能な社会が重要な理由も分かった気がします。
- ・自分の置かれている立場で何ができるか考え行動していきたいです。
- ・幸せとは何か？考えるきっかけとなりました。
- ・今日聞いた話を日常生活の中に気をとめながら、関心を持ち参考にしながら何か活かしていけたらと思っています。
- ・これまでの取り組みが無駄ではないと思えました。
- ・是非応援したいなと思うものばかりでした。しっかり広めていきたいです。

『第14回おかやまホタルフォーラム』開催報告

- ◆日時：10月29日（土）10時30分～12時30分
現地視察：13時～14時
- ◆会場：美咲町中央公民館
視察：仲好団地内川原
- ◆参加：56名（21団体等）
- ◆主催：美咲町、千年の森づくりグループ、
生活協同組合おかやまコープ美作エリア
（公財）おかやま環境ネットワーク



八木剛氏

◆内容：

冒頭、美咲町・岡部初江副町長より挨拶があり、その後、兵庫県立人と自然の博物館・八木剛氏の基調講演『ホタルとなかよくなるために』に続いて、ホタルの保護、復活、再生をめざし活動している取り組み紹介として、美咲町立加美小学校・4年生生徒『水辺学習の報告』、美咲町・仲好団地ホタル保存会・井上和治氏『仲好団地での保全活動』、北房ホタルの文化推進継承の会・坂本信広氏『子ども達や若者のホタル保護と共生』の報告があり、最後に質疑応答を通して参加者との交流をすすめました。

会場内では、故・梶田博司氏（元川崎医療福祉大学教授・元おかやま環境ネットワーク理事）所有の写真・各種資料展示や、倉敷市児島・岡本勇氏の資料展示がありました。

また、フォーラム終了後、仲好団地ホタル保存会が保全に取り組む「仲好団地内川原」を視察し、これまでの取り組みの成果を確認しました。



視察の様子

◆参加者の感想：

- ・各地でそれぞれの立場からできることを始め、環境を守ることに取り組まれていることに感動しました。
- ・私たちもしっかり関心をもって、知識としていただいたことを周囲に知らせ、一緒に進めていかなくてはならないと実感しています。
- ・ホタルが乱舞するまちづくりが今後もすすむよう、私たちひとりひとりが心がけていきたいですね。
- ・井上さんが個人で川の保全活動をされているのには驚きました。行政には頼らず個人や町内会等での継続的な活動が大切だなと感じました。
- ・年に一回のこの集いを毎年楽しみにしています。変わりゆく自然環境について考えさせられるよい機会です。
- ・各報告でそれぞれの地区での取り組みを知ることができました。子どもたちがホタルを通じて環境について考えていける取り組みへとつながっているのいいですね。継続してもらいたいです。
- ・各地のホタルの取り組みが紹介され、学びができました。加美小学校の4年生のみんなの取り組みの報告も素晴らしかった。井上和弘さんの40年の取り組みに感動しました。ありがとうございます！
- ・とても勉強になりました。子どもも連れて来ればよかったと思いました。
- ・住んでいるところが大好きだと思ふ子どもが増えるといいなと思いました。
- ・持続可能な社会を求める上で、時間的にも余裕はないと思います。とても良い機会になりました。

体験プログラム開催報告

『大野川いきもの調査会』

- ◆日時：11月3日(木) 10時～14時30分
- ◆参加者：43名
- ◆講師：吉鷹一郎氏(岡山野生生物調査会)
柏雄介氏(岡山淡水魚研究会)
- ◆概要：

6月12日の継続企画として、御津大野公会堂並びにその周辺河川敷にて開催しました。



いきもの観察の様子

当日は、岡山野生生物調査会・吉鷹一郎氏と岡山淡水魚研究会・柏雄介氏を講師に、現地の自然環境やいきものの生態等についての解説の後、4班に分かれ、岡山野生生物調査会、岡山理科大学、岡山理科大学附属高校の指導のもと、いきもの観察をし、最後に講師から調査結果のまとめの報告がありました。

また、地元の皆様に「いのししカレー」をふるまっていたいただきました。



調査結果まとめの様子

『旭川かいぼり調査2016』

- ◆日時：11月6日(日) 10時～14時
- ◆参加者：392名
- ◆概要：

岡山市北区・竹枝小学校横の旭川河川敷にて、竹枝学区ふるさと活性化協議会他、多くの団体等と共催で開催しました。

当日は、旭川本流河川敷と中洲の間を一時的にせき止め、いきもの調査と、川底の石を返し川を耕し、ゴミ拾いをしました。



←いきもの調査の様子



せき止め→の様子

調査では、魚種は絶滅が懸念されているアカザやカジカなど、例年並みの26種類が確認されました。

最後に、採集したいきものの解説を聴き、豊かな自然環境を確認しました。



←会場の様子



生昆虫 → 展示の様子

市民のための環境講座開催報告

岡山市生物多様性地域戦略タウンミーティング

『里地・里山と生物多様性』

- ◆日時：11月26日(土) 10時～12時
- ◆参加者：29名
- ◆概要：岡山県立大学名誉教授・伊藤國彦氏より話題提供していただいた後、岡山市の担当者より現状・課題、戦略案の説明を行い、意見交換をすすめました。



会場の様子

『環境を知るための 市民の科学(Part2)』

- ◆日時：12月10日(土) 13時～14時30分
- ◆講師：岡山理科大学名誉教授・野上祐作氏
- ◆参加者：11名
- ◆概要：昨年に引き続き、環境問題を考えるうえで必要な科学の基礎知識について、特に「酸性雨」について詳しく解説いただきました。

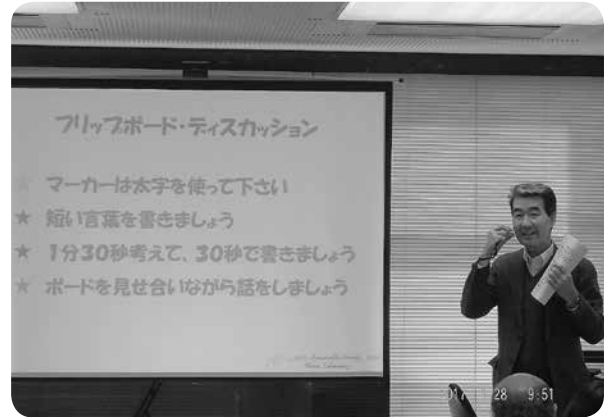


野上祐作氏

会場参加型講座

『環境問題は解決できるの?』

- ◆日時：1月28日(土) 10時～12時
- ◆講師：吉備国際大学教授・井勝久喜氏
- ◆参加者：16名
- ◆概要：環境問題を捉える視点として、環境問題の解決策、実現する方法等について、講師進行のもと、各テーマについて全参加者が3グループに分かれ、様々な視点からグループディスカッションをすすめました。



井勝久喜氏

『アマモ再生教室④ 苗の定植体験』

- ◆日時：2月13日(月) 6時～8時
- ◆会場：笠岡市・見崎公会堂並びに周辺海岸
- ◆講師：神島寺間見崎里浜づくり代表・森中憲治氏
- ◆参加者：22名(笠岡工業高校の生徒も参加)
- ◆概要：昨年10月に「育苗キット(アマモの苗)」を作成し、各家庭に持ち帰りその成長を観察してきましたが、今回はそのキットを持ち寄り早朝の干潮時、見崎公会堂前の海岸に植え付け作業を行いました。



↑植え付け作業の様子→



開催報告

『第14回水環境フォーラムin岡山』

特集：『資源・エネルギー循環の拠点としての排水処理施設』

- ◆日時：12月3日(土) 13時～16時45分
- ◆場所：オルガ5階会議室「スカーレット」
- ◆参加者：26名
- ◆概要：

(公社)日本水環境学会中国・四国支部岡山地域分科会との共催で開催しました。

水環境保全のためには適切な排水処理が不可欠ですが、近年は気候変動や天然資源の減少を背景に、排水を「価値あるもの」と見立て、処理の過程で排水から資源・エネルギーを回収しようとする動きが活発です。今回のフォーラムでは、下水と畜産排水の処理に関する動向・事例を4名の先生からご紹介いただいた後、総合討論として質疑応答、意見交換をすすめました。

- 京都大学大学院地球環境学堂准教授・大下和徹氏
「焼却を中心とした下水汚泥の処理・処分の動向」
- 京都大学大学院工学研究科講師・日高平氏
「メタン発酵を中心とした下水汚泥の処理・処分の動向」
- メタウォーター株式会社事業戦略本部事業企画部担当課長・福嶋俊貴氏
「資源・エネルギーの循環の拠点としての下水処理場」
- 岡山県農林水産総合センター畜産研究所専門研究員・白石誠氏
「畜産排水の処理と利用」



大下和徹氏

『岡山大学ビオトープ見学会』

- ◆日時：1月21日(土) 10時～11時30分
- ◆場所：岡山大学環境理工学部ビオトープ
- ◆講師：岡山大学副学長・大学院環境生命科学
研究科教授・沖陽子氏
- ◆参加者：22名
- ◆概要：

最初に沖陽子氏から「環境理工学部における実践型環境教育～地域からグローバルへ～」と題し、学部で目指す人材育成、環境問題を解決するための教育、現代的教育ニーズ取組支援プログラムについての解説があり、「蛭プロジェクト」や学内水循環施設(ビオトープ)の概要、目的及び成果、これまでの取組について報告いただきました。



沖陽子氏

その後、ビオトープにて各施設の説明を聞きながら、意見交換をすすめました。



岡山大学ビオトープ見学の様子

『助成活動報告会』のご案内

～2016年度助成団体からの活動報告と2017年度助成団体への目録進呈～

岡山で環境活動を行う団体や個人が集い、日ごろの活動紹介や、相互のネットワーク形成をとおり、地域での環境活動がより広がる機会になることをめざし開催します。どなたでも参加できます!

- ◆日 時：5月13日（土）13時～15時
- ◆会 場：オルガ5階スカーレット（岡山市北区奉還町1-7-7）
- ◆定 数：50名
- ◆参加費：無料 ※事前にお申込みください。
- ◆申 込：5月8日（月）までに下記「参加申込書」、または「参加申込書」の内容をご連絡ください。
- ◆内 容：2016年度助成団体活動報告と参加者交流と、2017年度助成団体への目録進呈

◆助成活動報告団体一覧

	団体名	企画名
1	あかいわ美土里の和	里山再生プロジェクト
2	千年の森づくりグループ	「美咲の森—豊かで、輝く郷づくり」
3	「ホタルの里」を記録する有志の会	「ホタルの里」のものがたり作成
4	岡山理科大学附属高等学校科学部	旭川流域河川の底生動物を利用した水環境調査
5	特定非営利法人里海づくり研究会議	沿岸海域における物質循環促進技術の開発 ～小型動物群集における主要種の物質循環機能の定量化～
6	認定NPO法人共存の森ネットワーク	誇りを持って日生を担う若者を育てる
7	おかやまコープ岡山東エリア	親子で学ぶ「瀬戸内海の生き物と環境」
8	あかいわエコメッセ	第18回あかいわエコメッセ（環境企画展）
9	おかやまエコマインドネットワーク	地域を活かす農業と食の安全

※お寄せいただく個人情報は当財団事業以外の使用や第三者への開示などを行いません。



公益財団法人おかやま環境ネットワーク

〒700-0026 岡山市北区奉還町1-7-7（オルガ6階）

Tel/Fax: 086-256-2565 携帯電話: 070-2355-1420

E-mail: kankyounet@okayama.coop

..... 切り取り線

5/13 助成活動報告会 参加申込書

フリガ 氏名	電話番号	
	携帯番号	
住所	(〒 -)	
E-mail	団体名	※個人の方は記入不要です

2017 年度助成団体 決定しました

2月理事会にて、2017年度助成団体が決定しました。

以下、団体名と企画名です。

1. つやま演劇教育研究会「演劇を介したクールチョイスの周知・促進」
2. あかいわ美土里の和「里山再生プロジェクト」
3. おかやまコープ美作エリア「バイオマス産業杜市真庭に学ぶ環境保全活動」
4. あかいわエコメッセ「第19回あかいわエコメッセ（環境企画展）」
5. 千年の森づくりグループ「豊かな美咲町自然・環境、人づくり」
6. 岡山理科大学附属高等学校科学部「旭川流域河川の底生動物を利用した水環境調査」
7. 認定NPO法人共存の森ネットワーク「アマモ場再生で形成される日生の食文化の伝承」
8. NPO法人里海づくり研究会「沿岸海域における物質循環促進技術の開発～無脊椎動物群のうち堆積物食者による物質循環機能評価手法の検討～」

※ 本誌 P.7 に掲載の 2016 年度に助成を受けた団体の「活動報告会」を 5 月 13 日(土)に開催します。

どなたでも参加できます。是非、各団体の活動を聞き、様々な県内の環境保全活動を知ってください。



千年の森づくりグループ活動の様子

アユモドキ 資料同封について

「アユモドキ里親会」が作成した『高島干潟パンフレット』を、会員の皆様に同封しています。ご査収ください。



日生でのアマモ保全活動

2016年10月に日生西小学校の生徒の皆さんが作成した「アマモポット」を、2017年2月7日にダイバーにより、植え付けされました。



植え付け作業の様子



植え付けされたアマモ

ホタル団体交流会の ご案内

団体又は個人でホタルの保護、復活、再生を通し、環境保全活動をすすめる取り組みの交流をすすめています。

4月15日(土)10時～オルガ5階会議室にて開催し、取り組み交流等をすすめます。

※どなたでも参加できます。参加される際は、事前にお申込ください。

メールニュース登録者 募集中

おかやま環境ネットワークの情報や、会員団体のイベント情報等を掲載しています。

配信希望の方はメールにて、件名：『メールニュース配信希望』とし、メールアドレス・お名前(必須)、所属団体・会社名(任意)を送信してください。

現在1,520名にご登録いただいています。

会員 募集中

おかやま環境ネットワークは、皆様からの会費、寄附、ボランティア活動で支えられています。ぜひ会員となり、活動をご支援ください。

【年会費】

個人・団体：2,000円

企業等：20,000円

学生：無料(大学生、大学院生、高校生、就職時は対象外)

.....
 新年度会費振込用紙を同封していますので、お振込み、よろしくお願ひいたします。

発行：公益財団法人おかやま 環境ネットワーク

〒700-0026

岡山市北区奉還町1-7-7(オルガ6階)

TEL/FAX:086-256-2565

携帯電話:070-2355-1420

E-mail:kankyounet@okayama.coop

HP:http://www.okayama.coop/kankyounet/